

日野区域事後評価第1回第三者委員会議事録

日時：平成18年5月26日（金）15:00～16:30

場所：日南町防災会議室

事務局： 　　ただいまより平成18年度緑資源機構営事業日野区域事後評価第1回第三者委員会を開催いたします。開催にあたりまして、機構本部計画評価部の笹森部長より挨拶いたします。

計画評価部長： 　　本日は、ご多忙中、農用地総合整備事業日野区域事後評価第三者委員の現地調査にご参加いただきまして誠にありがとうございました。これからは、事業評価について、持つべき視点なり、各委員のご意見をお伺いしたいと考えております。短時間ではございますが、よろしくお願い致します。

事務局： 　　それでは、お手元の議事次第にしたがって議事を進めてまいりたいと思います。

＜事務局より委員及び出席者の紹介（別紙出席者名簿）＞

事務局： 　　続きまして第三者委員会委員長選出ですが、委員長は委員の互選によって選んでいただくことになっております。どなたか委員長をお願いできる方はいらっしゃいませんか。

＜委員から、「熊谷委員」の声あり＞

事務局： 　　熊谷委員ということで、よろしいですか。それでは、以降の議事は熊谷委員にお願いします。

熊谷委員長： 　　はい。では、次に議事を進めてまいります。それでは事務局より、この第三者委員会の主旨をもう一度簡単に説明して下さい。

事務局： 　　それでは、平成18年度日野区域事後評価第1回第三者委員会参考資料を説明させていただきます。

＜平成18年度の運営について説明＞

事務局： 続きまして、事後評価調査結果を事務局より説明します。

<事後評価調査の結果について説明>

熊谷委員長： いかがでございましょうか。今日は自由に意見の交換を行い、それを踏まえて、事務局で資料の見直しをする方法でいきたいと思います。

熊谷委員長： 一番最後の14ページに評価の集約がくるわけですね、ここからが大事になってきますけれども、事務局の説明は、(1)で示されている(ア)(イ)(ウ)(エ)これが費用対効果の計測対象項目で、事業計画時の効果をこういう面からマニュアルに従って計測したということですね。次に(2)のところで事後の評価と考えると(ア)からこういう点が変わってきていること、その結果、費用対効果で計測する数値が変わってくるということですね。こういうことでいいですか。

事務局： はい。

熊谷委員長： これはもう計測されておりますか。

事務局： 現在、算定中でございます。

熊谷委員長： それから17ページの「4.事業効果の発現状況」、ここの部分は先程の効果別の要因の変化と係わりを持ってくるわけですか。

事務局： はい。

熊谷委員長： 最後に23ページの総合評価(案)でこれが事後評価として費用対効果が1.0以上出て、それを踏まえたうえでさらに波及効果、計算されない部分がありますから、そういうものも文章できちんと書いた上で最後に総合評価に集約すると、こういう話になります。

上原委員： 費用対効果ですが、事業計画中のB/Cは、どのくらいですか。

事務局： 1.0を少し上回る位です。

上原委員： 個別にあるわけですか。

事務局： 現在、事後評価時点の費用対効果につきまして算定中でして、最終チェックを行っているところです。次回の委員会で事業計画と事業評価時点の B/C をそれぞれご説明致します。

服部委員： 説明を聞いて、もう少し強調した方がいいという点について意見を言います。一点目は暗渠排水の効果をもう少し明確にした方がよいのではないかと思います。現地調査でかなりいろいろな場所で暗渠排水の効果があつたと農家の方が話されています。その点は事業の効果として強調した方がよいのではないかと思います。二つ目は、22ページの環境の変化のところですけども、環境の変化があまり大きくでない理由は、水周りっていいですか、河川の改修とかあまりしてないわけですから、当然のことながら、生き物への影響はそれほどでてこない。ですから、当然のことだということになるかと思うのですが。

熊谷委員長： あまり大きさに評価しない方がよい、ということですね。

服部委員： 三つ目は、14ページの費用対効果の中の林道に対する効果があまり数値的に出ていない。次回に出てくるわけでしょうけれども。その辺はどうでしょうか。

事務局： 森林の管理が容易になったり、林業輸送の時間が短縮されるなどの効果があります。地域では基幹的林道としての利用も考えて、二工区の終点部分に木材市場を移転する予定で、その用地も造成しています。そこに木材を集積し、農業用道路を利用して出荷される計画ですので、その量も見込んで効果の計算をしています。

熊谷委員長： 農道がきちんと出来上がったことによって、林業の手入れが頻繁に行われるようになったということもいえる、ということですか。

事務局： そうです。

事務局： 説明資料の中に聞き取り調査の結果を入れています。21ページの「森林管理における農業用道路の活用」の4行目のところから、関係者からの聞き取り結果を書いています。「農業用道路は基幹林道としての位置づけで考えて

いる」とか、「間伐・育林の作業に役立っている」など、管理がやりやすくなったということですので、その効果額は次回の委員会にお示しします。

上原委員： 数値的に出すということですか。

事務局： はい。

寺谷委員： 林業の関係につきましては、この地域は非常に力を入れて取り組まれています。貯木場の集積もありますし、非常にうまく行なわれており、農業としても大きな役割を担っていると思います。今日、見せていただいた、あのあたりは非常に熱心な方が管理をされていて、優良な人工林、林地が広がっております。そういう点での「農林業併用道路」としての役割は非常に重要な部分であると思います。今日、林業情勢が厳しい中で非常に大きな要因になるのではないかと思います。それから、数値の部分については算出していただいて次回の資料に出てくるのですが、ぜひ忘れて頂きたいのは、数値に表れない効果があるということ。この地域そのものが山間地域であり、農業を営むには非常に条件が厳しい地域で過疎が非常に進んでいます。そうした地域において、今回の事業がどういうふうな役割を果たしてきたか。やはり「農地を守る」それから「農村を守る」ということの大切さ、社会的要因の中で果たしている役割を評価することが非常に重要と思います。お年寄り、女性の生きがい対策という地域の活性化に果たしている重要な役割も是非強調して頂きたいと思います。それと、各地域が農業公社や認定農家、組合が中心となって農地を維持しているのですが、これからの課題として、どうやって維持していくかという問題、これらをきちっと書いて頂きたいと思います。それともうひとつ、町が事業を活かすための努力を熱心にされています。それは直売所や道の駅など、町そのものが山間地の中で特に農林業を基幹として単独の町として生きていくために取り組んでいる様々な対策を含めて評価することを、ぜひ検討していただきたいと思います。

熊谷委員長： そうすると、最後の部分について、役場が農業用道路などを活用した取り組みを積極的に行っている効果というのが何かありそうな気がしますから、行政効果が上がってきた、という波及効果を入れていいと思います。

事務局： 検討いたします。

熊谷委員長： 朝どれ野菜産直会についても、計画時には無く、想像もつかなかった話で

しょうが、役場の協力のもとに出てきている。採点はできないだろうけれども、転作の作物も新たに流通に入ってきて、農家の営農意欲が高まっていて、役場の取り組みが農村の活気を引き出している。これは、波及効果に入れていいと思います。

服部委員： 岡山方面に朝どれ野菜を運ぶのに道路が利用されている。その位置選定も路線選定も間違っていなかったことも強調していいと思います。

服部委員： 利用する人間が多くて、それから初めて効果というのが出てくるわけですから。彼らが非常に効果的に使っているということで投資の効果があった、ということになるわけです。

上原委員： 今日の現地調査の対象は特にいいところを選んだわけではないのですか。

事務局： 事業に関係するところを調査していくと、たとえば、日野町は農林振興公社が中心となって地域営農をしているものですから、そこに話を聞きに行ったところ、そういうふうに使っていますよというお話をしていただいた、ということです。

事務局： 各団地全部を回っているわけではありませんが、大きい団地を目指して行って、集落営農や認定農家の人たちのところにインタビューした結果です。特に神福団地は大きな団地ですので、そこに行ったら認定農家の方がいらして、そういう話をしていただいたということです。

寺谷委員： 集落営農は鳥取県全体では、広島県や島根県よりも遅れていますが、この地域に限ってみれば、言うなれば待った無しの状況にあるということも分かりませんが、県内でもモデル的に取り組まれている、とよく聞きます。うまくいっている、という感じです。ただ、何回も言いますが五年後、十年後はどうなるかという問題はありますが。このあたりの課題もぜひ出していきたいと思います。いろいろな形で大きな役割を果たしたということは、裏を返せばそういう課題もあるんだよ、ということもぜひ考えていかななくてはいけないと思っています。もうひとつ、本来の目的である生産性が上がったとか、新しい作物が導入されたという効果も大事ですが、数字に表れない効果の評価をぜひお願いしたいなと思います。よく中山間地域として一本化されますが、特に山間地という特殊な地域であり、その特殊性としての部分を評価していただきたいな、と思います。

寺谷委員： 朝どれ野菜の出荷額については、それほどの額ではないという話がありましたが、高齢者の生きがいになっており、数字には表れない部分があるという感じがします。

事務局： 先ほどの現地調査で、町の課長が「おばあさんたちが朝どれ野菜産直会で頑張っている。うかうかできない。追いまくられるので、逆に元気ももらっている。」と話されていた。このようなことが活性化の力となっているということだと思います。なかなかそういうのは数値化できないものですが。

寺谷委員： 元気なお年寄りが増えれば、医療費が減り、国の医療財政も改善されるといった効果があるのでしょうか。でも、そういうのはなかなか評価する方法はないと思います。

事務局： おっしゃるとおりです。なかなか数値として表しがたい効果です。

上原委員： 今後は調査項目に入れればいいです。

寺谷委員： これから非常に重要な効果項目になると思うのですが。

熊谷委員長： この評価の仕方は、これが無かったらどうなった、という評価をしなければならぬのですが、しかしこの評価のシステムはそういうことになっていません。こういうふうに事業をやったならば、今の状況がこういうふうによくなる、というのがこの評価の仕方であります。だから、プラスが一層大きくでなければならない。この事業が無かったならば、どれほど落ちてた、という話ができないものですから。

事務局： 耕作放棄されたら大幅に生産力が下がるわけです。本来の効果は低下のカバー分をみななければいけないのに、プラスの部分しかみてないわけです、なかりせば効果はみていないわけです。

熊谷委員長： 事業ではあくまでも事業前と事業後の差の評価しかできませんから。

事務局： 朝どれ野菜の場合は数値に表したら微々たるものですが、それだけでなく、実際は系統出荷みたいな形で、たとえば日南町でトマトであれば数十ha作って高い生産額を上げているわけです。しかしながら、こういう高齢化の

中で私どもが当初計画していたとおりにはなっていない部分も残念ながら現実にはあります。

寺谷委員：　　そういう点では、ソバというのは当初は計画していなかったけれども、事業が終わった頃から伸びてきています。この地域のソバは県内でも有名になってきましたから。

服部委員：　　さきほど熊谷委員も言われたように、数字で計れない、生きがいの効果というのが、今日はいろんな方の意見などを聞いて分かったのですけれども、ひとつ残念なのが若い人が全然出てこなかった、ということ。それは今後、この町が考えることであって、我々はそこまでタッチできるかどうか、ちょっと範囲を超えるんじゃないかと思うのですけれども。

上原委員：　　私、さきほども言いましたけど、できるだけ具体的に数字で見せてほしいということ。それから、感想ですけど、今日は本当にみなさんが非常に元気にがんばっておられると思いました。

事務局：　　本当に、日南町、日野町が、頑張っておられます。先ほど言いましたように、集落営農にしても認定農業者についても増えています。

寺谷委員：　　やはり、この地域は鳥取県の中でも、あるいは日本の典型的な地域ということもいえるかもしれませんが、「自分たちでやるんだ」「先祖からの地を守っていくんだ」という気概があって、事業をきっかけにさらに取り組みが広がっているということだろうと思います。そのあたりの、なかなか数字で表れないところが我々一番心配するところでありまして、やっぱり数字に表しにくいところを何らかの形で記載していただきたいなと、それをぜひお願いしたいと思います。

熊谷委員長：　この説明資料、これが修正されて第2回第三者委員会に出されるわけです。これは比較的よくできていると思います。ただ、もう少し、特に計測できない波及的な面での効果をもう少し丁寧に書いていただけないかな、と思います。強調しなければいけないと思います。計測する費用対効果にでる部分が従来から議論されているように極めて狭い範囲でしか計測されませんので、むしろその計測できない部分の方が大きな重要な効果があると認識するものですから。ぜひそのところを丁寧に書いていただきたいと思います。

事務局： それでは、長い間お疲れ様でございました。これをもって第1回第三者委員会を終わりたいと思います。本日は、どうもご苦労様でした。

(別紙)

平成18年度緑資源機構事業日野区域事後評価第三者委員会(第1回)
出席者名簿

事後評価第三者委員

氏名	所属
上原 和孝	(社)中国地方総合研究センター常務理事
熊谷 宏	東京農業大学教授
寺谷 寛	新日本海新聞社取締役中部本社代表
永木 正和	筑波大学教授
服部 九二雄	鳥取大学教授

(五十音順)

事後評価委員会関係者

氏名	所属
柵木 環	農林水産省農村振興局総務課課長補佐
笹森 洋	緑資源機構計画評価部長
白戸 明	" 近畿北陸整備局長